



すくすく移植サンゴ 沖ノ鳥島、水没回避へ期待

2008年4月から、沖ノ鳥島（東京都小笠原村）で進められているサンゴの増殖実験で、海底に移植したサンゴが順調に成長していることが、水産庁の調査によってわかりました。

海底に移植した高さ1センチ前後の稚サンゴは、今年初めまでに最大で約5センチに成長していました。【写真・上】

沖ノ鳥島は、北緯20度25分、東経136度05分に位置し、東京から約1700km、小笠原諸島父島からでも約900km離れた日本最南端の島です。



海底に移植して9カ月後のサンゴ。手前の枠は保護用の金属カゴ。09年1月下旬。【水産庁提供】

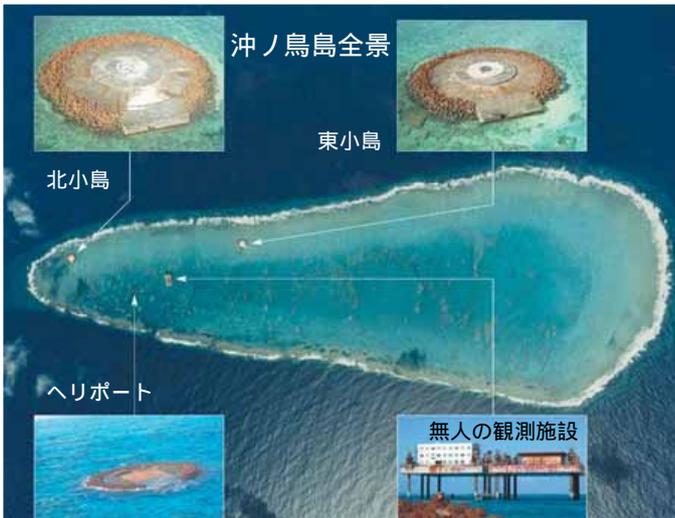
日本の国土面積約38万km²を上回る、約40万km²の排他的経済水域（EEZ）の基点となる重要な島ですが、波による浸食などで満潮時には2つの島が、わずかに残るのみとなっています。【写真・下】

昨年4～5月、水産庁の委託を受けた社団法人水産土木建設技術センターの研究チームが、沖ノ鳥島の親サンゴの卵をもとに沖縄県でサンゴを育て、約6万株の稚サンゴを移植しました。【写真・中】

稚サンゴは、セラミック製の四角い枠の上に直径1センチ前後に成長したもので、うち3割を魚による被害を防ぐために、直径約30センチの金属製のカゴで覆いました。



サンゴの移植作業。08年5月。枠内/移植前の稚サンゴ。【水産庁提供】



両小島は、侵食を防ぐため消波ブロックの内側に特殊コンクリートを注いで周囲を固めています。

むき出しの稚サンゴは、約1割が被害を受けていましたが、カゴで覆った稚サンゴは、ほぼ被害がなく、金属製のカゴを使用することで外敵からの被害を防げることが確認されました。

この実験の成功は、世界各地で発生している、白化現象やオニヒトデなどの被害を受けたサンゴ礁再生の、新たな取り組みとして注目されています。

